


【岐阜女子大学】メタデータ記述用紙

	メタデータ項目	メタデータ記述欄
1	ID	
2	表題名	沖縄の歴史上人物
3	資料名	吉屋チルー 仲島の大石
4	内容分類	郷土・歴史
5	索引語	沖縄・琉歌・吉屋チルー・仲島の大石
6	説明	<p>吉屋チルーは琉球王国の遊女で、琉歌の歌人でもある。「吉屋チル」「よしや」「吉屋」とも表記する。</p> <p>吉屋チルーは読谷山（ゆんたんざ；今の読谷村）の貧しい農民の娘として生まれ、わずか8歳で那覇の仲島遊郭へ遊女として売られてきた。よしやは遊郭の客だった「仲里の按司」と恋に落ちたが、黒雲殿とよばれる金持ちに身請けされたため、添い遂げられず悲嘆にくれ、食を絶って18歳で亡くなったといわれている。</p> <p>吉屋チルーの代表作のひとつに以下の歌がある。故郷を後に遊郭へ向かう中、大きく深い川（比謝川）にかかる橋を渡る不安と恨みを込めて詠んだ歌といわれている。</p> <p>（琉歌）恨む比謝橋や情きねん人ぬ 我ん渡さと思て掛きてうちえさ （意味）恨めしい比謝橋は情けのない人が私を渡そうと思って掛けておいたのだろうか。</p> <p>また、仲島を詠んだ歌もある。</p> <p>（琉歌）仲島ぬ花と美らさ咲ちなぎな 詠だる琉歌数に心くみて （意味）仲島の花と美しく咲きながら詠んだ歌の数々に心を込めて</p> <p>仲島の大石は沖縄県立図書館と那覇バスターミナル、商業施設の複合施設の裏手、朝夕と多くの人が行き交う場所に位置している。</p> <p>17世紀後半、仲島の大石のあった仲嶋村（仲島村）には首里王府によって遊郭が公的に設置されていたとされている。</p> <p>沖縄県立図書館、沖縄県立博物館・美術館には1770年頃の古地図が現存しており、デジタルマップ「沖縄・首里那覇港図屏風展」として公開されている。この屏風絵にも仲島の大石は描かれているようである。</p>
7	形式	静止画（jpg）
8	氏名	撮影者：*****
9	時代・年	2021/12/26
10	地域・場所	沖縄県那覇市泉崎1丁目20-3
11	利用条件	表示 4.0 国際（CC BY 4.0）
12	関連資料	
13	権利者	岐阜女子大学
14	協力者	なし
15	登録日	2021/01/28
16	登録者	田港さくら

17	ファクトデータ	circd0915-0021. jpg
18	サムネイル	
19	公開の可否	公開可
20	* 特色	<p>仲島の大石（なかしまヌウフシー）は、昭和 33 年 3 月 14 日に沖縄県指定の文化材（県指定史跡・天然記念物）に指定されており、昔の自然の様子を伝える貴重な資料となっている。</p> <p>仲島の大石は、久米村の住民が風水上重要な地としていたとの記述が『南島風土記』（東恩納寛惇 著）にあり、付近は「仲島前の浜（なかしまメヌハマ）」、「大石の前（ウフシーヌメー）」などとよばれ、近隣住民にも縁起の良い岩として大切にされてきた。</p> <p>仲島の大石は、高さ 6 メートル、中央部の周囲は約 25 メートルの琉球石灰岩で、岩の下部は波に侵食されてくぼんだ「ノッチ」とよばれる跡があり、昔このあたりが海岸であったことを示している。</p>
21	* 活用支援	
22	* 利用分野	教育、生涯学習、地域学習
23	* 改善結果	
24	* 処理プロセス	
25	機関外リンク情報	
26	目標	
27	紹介	